

■石井菊次郎 外交官。米國務長官との間に“石井・ランシング協定”を結ぶも実効あがらず、以後、国際場裡に活躍。

いしいきくじろう

薩長同盟・1866＝ 上総国長柄郡真名村(千葉県茂原市真名)に父大和久市作・母ちかの次男として生まる。

明治維新・1868＝ 2歳：

明治6年政変 1873＝ 7歳：

初の民間工場1875＝ 9歳：

明治14年政変1881＝15歳：

秩父事件・1884＝18歳：

千葉中学から帝国大学法科大学法律学科に学び、

帝国憲法発布1889＝23歳：

帝国議会始・1890＝24歳：卒業。外務省に試補として入り、石井邦猷の養子となる。

足尾鉉毒始・1891＝25歳：パリに赴任、

郡司千島探検1893＝27歳：

日清戦争始・1894＝28歳：

5年間在勤して、

白馬会・1896＝30歳：韓国仁川領事、

八幡製鉄始・1897＝31歳：清国に転じ、

Bushidou・1899＝33歳：北京公使館に在勤中義和団事件にあい、北京籠城を経験した。

ピアノ国産化・1900＝34歳：本省に帰り、電信課長、

教科書疑獄・1902＝36歳：

日露戦争始・1904＝38歳：通商局長に進んだ。小村寿太郎の知遇をうけ、

日露戦争終・1905＝39歳：日露講和に際しては、樺太南部割譲の内意が露国側にあるとの情報を得て講和の促進に寄与した。

アヲギ 創刊・1908＝42歳：\*西園寺内閣の林董外相の下で次官をつとめ、

大逆事件判決1911＝45歳：男爵を授けられる。

明治天皇没・1912＝46歳：駐仏大使となる。

第一次大戦始1914＝48歳：在任中、<第一次世界大戦>が起り、

21ヶ条要求・1915＝49歳：\*大隈内閣の下で、加藤高明に代わって外相となり、英仏露三国単独不講和宣言への日本加入を実現、日露同盟条約を締結した。袁世凱の帝政企図には反対して英仏露三国とともに中国に対し共同勸告を行なう。

ロシア革命・1917＝51歳：\*特派大使としてアメリカでランシング國務長官との間にいわゆる“石井・ランシング協定”と呼ばれる日米共同宣言に調印、中国における日本の特殊利益を認めさせたが、両国の解釈の食い違いで実効挙がらず、

本格政党内閣1918＝52歳：駐米大使となり、シベリア出兵について困難な日米間交渉にあたる。

ベルリン条約・1919＝53歳：辞任して日本に帰った。同年、国際連盟総会第1回会議の日本代表となったのを皮切りに、

大暴落・1920＝54歳：再び駐仏大使となる。

原敬首相暗殺1921＝55歳：

関東大震災・1923＝57歳：\*“石井・ランシング協定”は廃棄された。

国連協会会長、

金融恐慌・1927＝61歳：<ジュネーブ軍縮会議全権>等を兼ね、

世界恐慌・1929＝63歳：枢密顧問官。

満州事変・1931＝65歳：

国際連盟脱退1933＝67歳：世界経済会議全権。

日中戦争始・1937＝71歳：遣英公使節となるなど、外交経験を生かして国際場裡に活躍。

健保+総動員 1938＝72歳：

日米開戦・1941＝75歳：

晩年は昭和の目まぐるしい世の推移を眺めていたが、日独伊三国同盟の審議にあたって批判的態度をとった。

敗戦・1945＝79歳：\_東京大空襲下、行方不明となった。

著書に「外交余録」「外交随想」(遺稿)がある。